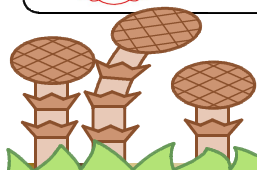


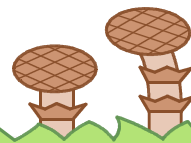


# いいおっ子

旭市立飯岡小学校  
学校だより No. 25  
H31. 3. 4



## ◇◆◇6年生を送る会◇◆◇



【6年生の発表「すてきな影絵DEショー」】

2月28日（木）に「6年生を送る会」が行われました。雨が降る肌寒い日でしたが、たくさんの方々に参観いただきました。ありがとうございました。

各学年とも短い準備期間、練習期間にもかかわらず、趣向を凝らした素晴らしい発表でした。

特に、6年生の発表「すてきな影絵DEショー」は、プロのパフォーマー集団かと思われるほど、完成度が高いものでした。

- 1年生 「大好きな6年生へ！ おもてなしショー」
- 2年生 「何かいいアイデアありませんか？」
- 3年生 「手をつなごう世界の子どもたち」
- 4年生 「思い出のメロディー」
- 5年生 「我らの波止」



## ◇◆◇「失敗する」のが当たり前◇◆◇

オランダのアムステルダムという都市には、街中に運河が張り巡らされています。なんとその運河には基本的に柵はないそうです。日本人からすると“子どもが落ちたりして危ないのではないか”“どうして柵をしたり、「危ない！」とかサインを書かないのか”と思うようです。ところがオランダでは、もっと根本的な対策を施しているそうです。

それは、子どもは「全員泳げるようにする」というものなのです。

子どもたちは、だいたい5歳くらいになると全員水泳教室に通い始めます。そこで習うのは、「溺れた時にどうするか？」ということ。日本のようにクロールや平泳ぎの手の動きや、足の動きを丁寧に教えてもらうことはありません。どんな泳ぎ方でもいいのでとにかく溺れない、ということを習います。潜って障害物の間を通過して来たり、プールに飛び込んだり。そして、少しずつ上達してくると、今度は着衣水泳を始めます。

オランダの水泳教室の目的は、25Mをクロールで泳ぐことではなく、また50Mを何秒以内に泳ぐことでもありません。ただ、「溺れないようにすること」、目的はこれだけです。なので、運河に落ちた時でも溺れないように、洋服を着たまま泳ぐ練習をするのです。

上級になってくると、着込む洋服がTシャツからコートといった厚手のものになっていきます。泳ぎ方はお世辞にも綺麗だとは言い難いのですが、子どもたちはこのような練習を重ね、最終的には50Mくらいは足をつかずに泳ぎ切れるようになります。しかも、途中で立ち泳ぎ的なことをしながら、止まったり、潜って障害物の間を泳いだりしながらです。もちろん、着衣水泳でも同じことをします。

このような水泳の試験にパスすることが、ほぼ全員の必須課題になっています。

いかに失敗をなくすのか？ではなく、大人も子どもも「失敗する」のが当たり前、失敗することを前提にその対応を工夫していくのがオランダ流のようです。

参考:公益財団法人Imore Baby応援団

人間は失敗するのです。大人も子どもも「失敗する」のが当たり前なのです。だから、失敗した時に対応できる力をつける必要があるということです。

また、オランダの「全員が泳げる」に匹敵するようなことが、日本の小学校にあるのか？6年間通って、全員がもれなく力をつけることができたことは何か？

年度の終わりにあたり考えさせられました。

## ◇◆◇いいおっ子の活躍◇◆◇

おめでとうございます



○善行児童表彰 永井 さん（6年） 向後 さん（6年）

○旭いいおか 文芸賞 「海へ」

匠瑳高等学校同窓会長賞 佐久間 さん（5年）

入選 舘 山 さん（5年）

佳作 堀 川 さん（4年）

